京都市東本願寺前市民緑地の整備における利害関係者の意識の現状について

ー利害関係者の主体性発現を促すための関係者会議を事例としてー

Regarding the current state of stakeholder awareness in the development of the citizen green space in front of Higashi Honganji Temple in Kyoto City
: -The case study of a stakeholder meeting to promote the independence of stakeholders-

島田詩也*・金度源**・大窪健之***
Utaya Shimada *・Dowon Kim**・Takeyuki Okubo***

In this study, we will analyze the process up to the holding of the stakeholder meeting held as part of the Higashi Honganji-mae Citizens' Green Space project based on the action research method. We will extract issues and improvement plans to promote the independence of each stakeholder in the Higashi Honganji-mae citizen green space. From there, we will clarify the current status of "Thoughts for the Stakeholders' Meeting in Higashi Honganji-mae Citizens'Green Space" and "Independence for the Higashi Honganji-mae Citizens' Green Space Project".

Keywords: hearing survey, community design, action research
ヒアリング調査、コミュニティデザイン、アクション・リサーチ

1 章. はじめに

1-1. 研究の背景

京都駅周辺の地域活性化に取り組む京都市と地域に開かれた門前としてたくさんの人がお参りに来てくれるような場所になることを目指す東本願寺の想いが一致し、東本願寺前の市道と東本願寺が所有する緑地を一体的な緑の空間として活用できるように市民緑地が整備されることが決まった。京都市は「賑わい・憩いの空間」、「歴史・文化の発信の空間」、「修学旅行生徒のおもてなしの空間」の 3 つのテーマを掲げており、令和 5 年春には東本願寺前の市道を廃止し、緑地帯と一体となって整備を行う予定となっている[1)]。市民緑地法に基づく市民緑地の整備は京都市として初めての試みであり、京都市と東本願寺の願いを実現させるための空間として京都市と東本願寺だけでなく学区、商店街、事業者の人たち（以下、利害関係者）からも大きな期待が寄せられている[2)]。しかし、新型コロナウイルスの影響もあり、各利害関係者の想いをくみ取りながら整備を行うことができない現状があった。

令和２年 10 月から一般社団法人公共事業研究開発と立命館大学都市地域デザイン研究室（筆者）が東本願寺前市民緑地整備に向けた機運醸成事業の事務局の役割として、東本願寺前市民緑地整備計画の策定の支援を行うこととなった。

1-2. 研究の目的

本研究では、東本願寺前市民緑地における機運醸成事業の一環として行われた関係者会議が開催されるまでのプロセスをアクションリサーチの方法に基づき、今後、東本願寺前市民緑地に対して各利害関係者の主体性の発現を促すための課題と改善案を抽出するために、東本願寺前緑地帯の整備が行われる前の段階で各利害関係者が「東本願寺前市民緑地における関係者会議に対してどのように思っているのか」、「東本願寺市民緑地のプロジェクトに対して主体性を持っているのか」を明らかにすることを目的とする。

1-3 ． 研究の方法

第 2 章では、研究対象地に関する情報の整理を行う。2-1 では東本願寺前市民緑地整備のこれまでの取り組みと今後の取り組みについての概要を記述する。2-2 では東本願寺前市民緑地整備によって発足した東本願寺前における市民緑地整備に向けた機運醸成事業について記述する。2-3 では本研究で評価する関係者会議の位置づけについて記述する。

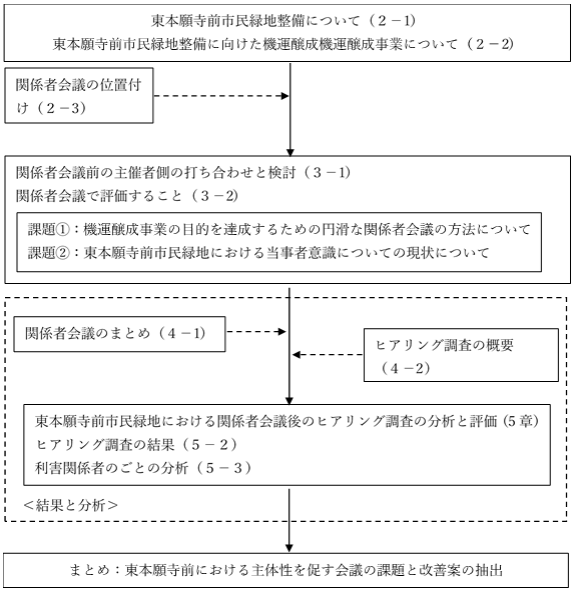
第３章では、関係者会議が行われる前の打ち合わせの内容をまとめることで、関係者会議の目的や本研究の評価する点を整理する。3-1 では、関係者会議前の主催者側の打ち合わせで検討された事柄を記述し、3-2 では、関係者会議で評価することを課題で明示する。

第 4 章では、関係者会議と関係者会議後のヒアリング調査の概要をまとめることによって各利害関係者の発言の特徴を明らかにする。4-1 では関係者会議の参加者等の概要を記述し、4-2 では 3-2 で明示した課題を明らかにするために行ったヒアリング調査の実施日時や方法を整理した。

第 5 章では各利害関係者が持っている意見や思考の傾向を分析し、課題を抽出し評価を行う。5-1 ではヒアリング結果の分析方法について記述する。5-2 ではヒアリング調査の結果を示し、5-3 では利害関係者ごとの分析を行った。

* 著者 1 会員種別・所属(和・英)
**著者 2 会員種別・所属(和・英)

第6章では本研究の総括を行い、今後の課題について述べる。



【図-1】研究の方法

1-4. 先行研究

これまでアクション・リサーチの視点で行われた研究には阿部ら(2017)の気仙沼市内湾地区を対象とした復興まちづくりにおけるまちづくり会社を組成するプロセスにおいて議論の場の進め方の有効性を示す研究[5)]、渡辺ら(2001)の千葉県都市景観市民フォーラムを対象とした公共空間利用の方向性をオープンカフェとパラソルギャラリーの２つのイベントから公共空間利用実験のプロセスから検討した研究[6)]がある。本研究は機運醸成事業の取り組みの 1 つである関係者会議が開催されるプロセスに各利害関係者が持っている意見の現状をヒアリング調査で抽出する。ヒアリング調査においては客観性を確保するために阿部ら(2017)の方法と同様に質的データ分析法[(1)]を用いた。

2章. 研究対象地の概要

2-1. 東本願寺前市民緑地整備について

京都市役所は京都駅を中心とし東エリアと西エリアの地域活性化計画を進めている。東エリアでは令和５年に京都市立芸術大学が移転予定で平成２６年から京都市立芸術大学を核とした「京都市立芸術大学を核としたエリアマネジメント」の構築に向けた取り組みが下京渉成５学区を中心に行われてきた[7)]。そして、平成31年3月に「京都駅東部エリア活性化将来構想」が策定され、「文化芸術都市・京都」として様々な取り組みが行われている。この取り組みの一環として東本願寺所有の緑地と市道の車両部を一体的な空間として活用できるように市民緑地が整備される。

2-2. 東本願寺前における市民緑地整備に向けた機運醸成事業[(2)]

「東本願寺前における市民緑地に向けた機運醸成事業」は令和2年10月29日に下京区役所から一般社団法人公共事業研究開発に委託された事業である[4)]。本事業は①地域住民や近隣事業者及び東本願寺関係者をはじめ広く多くの一般市民から意見徴収、②本願寺市民緑地整備についての周知のための情報発信、③緑地の運営についてのルールを決めることを目的としている。上記の目的の達成を目的とするために令和2年度の「東本願寺前における市民緑地整備に向けた機運醸成事業」では「東本願寺前市民緑地整備にかかる関係者会議」「緑地でのイベントや飲食ブースの展開とそれに合わせたアンケートによる意見徴収」「地元メディアなどに対するリリース、情報発信の協力依頼」の開催を予定されている。

本事業を学問的な視点から分析・評価を行うために立命館大学都市地域デザイン研究室が一般社団法人公共事業研究開発と共に事務局的な立場として参画する。本研究で取り扱う「東本願寺前市民緑地整備にかかる関係者会議」において、筆者はオブザーバーとして参加した。

2-3. 関係者会議の位置付け

東本願寺前における市民緑地に向けた機運醸成事業における関係者会議の位置づけとしては東本願寺前市民緑地整備についての情報共有や各利害関係者の立場から出てくる意見収集を行い今後の東本願寺前市民緑地の利活用を考えていく場としている。本研究で取り扱う関係者会議は本事業が開始されてから初めて行われた会議であったため顔合わせの場としての認識があった。

3章 関係者会議の前提・検討＜企画・調整段階＞

3-1. 関係者会議の打ち合わせと検討

本会議を開催するにあたり主催者側である下京区役所と一般社団法人公共事業研究開発との間で打ち合わせが令和2年11月16日、11月25日、12月2日の計3回行われた。このとき、立命館大学都市地域デザイン研究室の准教授金度源氏も研究者としての観点から発言するために参加した。なお、著者は11月16日と12月2日の打ち合わせにオブザーバーとして参加した。

全 3 回の打ち合わせでは東本願寺前における市民緑地整備に向けた機運醸成事業についての内容と関係者会議の目的の共有と項目についての議論が行われた。本会議は２－３で挙げた通り、東本願寺前市民緑地の情報共有と各利害関係者の立場の意見収集が目的されている。この目的を基に本会議の進行表が作成された【表 - 1】。

【表 - 1】４の具体的な内容については①「市民緑地整備事業の概要について」は東本願寺前市民緑地のハード面についての内容を京都市役所みどり政策推進室が話す。②「下京区で進む周辺まちづくりについて」では京都駅を中心とした西部エリアと東部エリアの活性化についての説明を下京区役所地域力推進室が話す。③「市民緑地予定地の変遷について」では東本願寺前の緑地部分と東本願寺周辺の地域の歴史的な経緯と形成過程や日本の公園の事例を金度源氏が話す。④「東本願寺前での実施事業について」では下京・京都駅前サマーフェスタ等の取り組みから機運醸成事業についての趣旨や内容を一般社団法人公共事業研究開発が話す。⑤「質疑応答・意見交換」では各利害関係者の立場、

視点からの意見を述べてもらえるようにすることが共有された。なお、円滑に質疑応答・意見交換を進めるために七条商店街振興組合の理事長であり、皆山学区の副会長である T 氏に対して意見を求め周りに対する意見の呼び水にすることが決められた。以上の①から⑤が打ち合わせで検討された。

本会議の関係者は地域住民として東本願寺がある皆山学区をはじめ、これまで東本願寺前の取り組みに関わりがなかった植柳学区、尚徳学区、稚松学区、菊浜学区、崇仁学区の自治連合会の会長と西本願寺前の門徒として西本願寺前のまちづくりを行ってきた植柳まちづくりプロジェクトチームも声をかけた。また、長年京都駅前周辺で商売をしている 6 つ商店街に案内を出した。さらに事業者の立場として、これまで「下京・京都駅前サマーフェスタ」の運営も行ってきた京都駅ビル開発株式会社、京都タワービルで商業施設を展開している株式会社京阪流通システムズ、京都駅周辺でホテルを展開している京阪ホテルズ＆リゾーツ株式会社、東本願寺前市民緑地のそばにあるホテルカンラ京都に声を掛けた。そして、東本願寺前市民緑地整備後開催されるイベントに関わることが期待されており、京都駅東部エリアの地域活性化の取り組みで移転してくる京都市立芸術大学も関係機関として案内をした【表 - 2】。

【表 - 1】第 1 回東本願寺前市民緑地における
関係者会議の進行表

東本願寺前市民緑地における関係者会議の進行内容
1　開会
2　挨拶
①　京都市下京区長
②　真宗大谷派 宗務所 総務部
3　出席者紹介
4　内容
①　市民緑地整備事業の概要について
②　下京区で進む周辺のまちづくりについて
③　市民緑地予定地の変遷について
④　東本願寺前での実施事業について
⑤　質疑応答・意見交換
⑥　今後のスケジュールについて
5　閉会

3-2.　関係者会議で評価すること

東本願寺前市民緑地における関係者会議の打ち合わせの内容を把握した上で、今回の関係者会議を行うにあたり、課題①：東本願寺前における市民緑地整備の機運醸成事業の目的を達成するための円滑な関係者会議の方法について、課題②：東本願寺前市民緑地における当事者意識についての現状を課題として設定した[6]。課題①は今後、機運醸成事業を行っていく中で複数回関係者会議が開催されることが予想される。この中で効率的に進行を行わないと関係者会議への参加者の減少、機運醸成事業の目標ができないといった懸念点が考えられるため課題として設定した。また、課題②は東本願寺前市民緑地が整備され利活用していく際に関係者が当事者として意識を持ち主体性を持つことが大切であると考えたため設定した。上記の２個の課題について評価を行っていく。

4 章　関係者会議の結果＜実施段階＞

4-1.　関係者会議のまとめ [3]

第 1 回の東本願寺前市民緑地における関係者は令和 2 年 12 月 7 日 19 時から 20 時 30 分に下京区役所 4 階の会議室で行われた。関係者として本会議の案内を出した方で地域住民は皆山学区、植柳学区、尚徳学区、稚松学区、菊浜学区、崇仁学区、植柳まちづくりプロジェクトチームの全ての団体の代表が参加した。また、商店街は 6 つのうち東本願寺に隣接しておりこれまでに取り組みに関わりがある七条商店街振興組合と東本願寺前商店会、これまであまり接点がなかった新京都駅頭会が出席した。さらに、事業者は京都駅ビル開発株式会社、株式会社京阪流通システムズ、ホテルカンラ京都が関係者会議に出席した。なお、京阪ホテルズ＆リゾーツ株式会社については出席予定であったが当日欠席であった。そして、関係機関として招待された京都市立芸術大学も出席した。関係者として案内を出した団体と出席状況について【表 - 2】[4] にまとめる。

本会議自体は予定通り【表 - 1】に沿って進行していった。質疑応答・意見交換の際、周囲への意見の呼び水として T 氏に意見を求めたが、あまり効果がなく意見交換の場とならなかった。そのため、一般社団法人公共事業研究開発の O 氏が利害関係者に対して意見を聞く形式になった。

【表 - 2】　東本願寺前市民緑地における関係者会議の
案内と出席状況

区分	団　体　名		役職等	第1回案内	第1回出席
地域	植柳学区	植柳自治連合会	副会長	○	○
	尚徳学区	尚徳自治連合会	会長	○	○
			市政協力委員連絡協議会会長		○
	稚松学区	稚松連合会	会長	○	○
			消防団		○
	菊浜学区	菊浜連合会	市政協力委員連絡協議会会長	○	○
	皆山学区	皆山連合会	会長	○	○
			副会長		○
	崇仁学区	崇仁自治連合会	副会長	○	○
	植柳まちづくりプロジェクトチーム		代表	○	○
			スタッフ		○
	崇仁まちづくり推進委員会		副会長	○	○
商店街	京都駅前東栄会		欠席	○	
	京都駅前東商店街		欠席	○	
	京都駅前豊栄会		欠席	○	
	七条商店街振興組合		理事長	○	○
	新京都駅頭会		会長	○	○
			副会長		○
	東本願寺前商店会		副会長	○	○
					○
事業者	京都駅ビル開発株式会社 営業部 文化・観光プロモーション課		課長	○	○
			課長代理		○
	京阪ホテルズ＆リゾーツ株式会社　タワー事業部		副部長	○	
	株式会社京阪流通システムズ　営業本部京都事業部		副部長/京都タワーサンド館長	○	○
					○
	ホテル カンラ 京都		総支配人	○	○
			宿泊支配人		○
東本願寺	真宗大谷派宗務所	総務部	次長	○	○
			主事		○
		財務部	主事		○
学識者	立命館大学理工学部環境都市工学科		准教授		○
関係機関	公立大学法人京都市立芸術大学　移転準備室		室長	○	○
			副室長		○
京都市	都市計画局	歩くまち京都推進室	担当係長	○	○
					○
	建設局	みどり政策推進室	緑化推進課長	○	○
			みどり協働係長		○
	下京区役所	地域力推進室	区長		○
			副区長・地域力推進室長		○
			企画課長		○
			振興係長		○
					○
事務局	一般社団法人公共事業研究開発		代表理事		○

4-2.　関係者会議後のヒアリング調査についての概要

第 1 回の東本願寺前市民緑地における関係者会議後、課題①：

東本願寺前における市民緑地整備の機運醸成事業の目的を達成するための円滑な関係者会議の方法について、課題②：いかに東本願寺前市民緑地整備に対して当事者として意識を持ってもらうかについての評価を行うために令和2年12月22日から令和3年1月29日に期間にかけてヒアリング調査[5]を行った。ヒアリング調査については参加した地域住民、商店街、事業者、関係機関、東本願寺の代表者に対して行った。なお、事業者と関係機関については代表者と共に出席された方にも同席していただいた。

本研究でのヒアリング調査は、1-2で述べた各利害関係者の「東本願寺前市民緑地における関係者会議に対してどのように思っているのか」と「東本願寺前市民緑地のプロジェクトに対して主体性を持っているのか」を明らかにするだけでなく、各利害関係者の東本願寺前市民緑地に対する率直な意見を聞くことも目的としてあった。そのため、聞きたかった事柄とヒアリング対象者が言いたい内容を徴収することができる半構造化インタビュー[8][9]の形式をとった。ヒアリング内容は「第1回関係者会議で東本願寺前市民緑地に対して持った意見（期待すること、懸念すること、開催したいイベント、その他の意見）」、「今後における関係者会議の課題」、「東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいか」の３点についてヒアリング調査を行った。本研究では関係者会議に対する評価と主体性の抽出のみで良いため「今後における関係者会議の課題」と「東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいか」についての分析を行った。

5章　関係者会議のヒアリング調査の分析と評価<評価段階>

5-1.　ヒアリング調査の分析方法

前章の関係者会議後に全15回行った各利害関係者のヒアリング調査の発言を対象に、以下の方法で質的データ分析を行った。[5][10]

①ヒアリング調査の発言をボイスレコーダーによって記録し、テープ起こしを行う。
②質問に対する発言内容に対してコーディングを行い、エクセル表に整理する[6]。
③質問に対する発言からテーマを抽出する。なお、「今後における関係者会議の課題」対しては「会議の課題」と「会議の解決策」、「会議への意見」の計3テーマ、「東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいか」に対しては「東本願寺前市民緑地に対して主体的に関わっていきたいか」と「東本願寺前市民緑地に対して受動的に関わっていきたいか」、「主体と考えている団体」、「その他」の計4テーマに分類する。
④②で抽出したフレーズを該当するテーマに振り分け、地域住民、商店街、事業者、関係機関、東本願寺の各利害関係者の立場からの意見が分かるように表で整理する。なお、ヒアリング調査に際に著者が例を示したことで回答を得たコードは〔〕、質問内容と異なる場所から得たコードは（）で表す。

5-2. ヒアリング調査の分析結果

地域住民と商店街、事業者、関係機関、東本願寺の分析結果を【表 - 3】～【表 - 7】で示す。

【表 - 3】地域住民のヒアリング結果

発言のテーマ		区分						
		尚徳自治連合会会長	菊浜連合会市政協力委員連絡協議会会長	皆山連合会会長	崇仁自治連合会副会長	植柳自治連合会副会長	植柳まちづくりプロジェクトチーム代表	稚松連合会会長
会議に関する内容	①課題と②解決策	・会議自体がまだ始まったばかりでありどこをどうしていけばよいかわからない。 ・会議の議論については今すぐイメージが浮かばない。	・①第一回関係者会議の人数では意見交換するのは難しいため、②少人数で行うと意見を言う場になるかもしれない。 ・①基本的な知識がないと意見を言いにくい。 ・①今の会議は年齢層が高く偏った意見しか出てこないため、②若い人の意見を聞くことは大事。		・①関係者はおそらく公園の知識があまりなく想像しにくいため、②他の都市や地域の市民緑地の事例の紹介を行った方が良い。 ・誰が東本願寺前市民緑地の維持管理を行っていくのか。	・①事業者の人と地域の人の目的をどう融合させるのか。 ・①誰が中心となって東本願寺前市民緑地の整備を進めていくのかが課題になってくる。	・①より多くの人に東本願寺前市民緑地のことを知ってもらい興味を持ってもらうために、②これからの会議は地域の輪を広げコミュニティを作っていく。	・①行政と東本願寺の人たちの意見に対しての返答する場であり、意見を述べる場ではない。
	意見	［・学区の方だけでない人たちとの顔合わせは見ていた。］		・東本願寺前にあるため、西本願寺の学区では、「みんなで行こう」という雰囲気を作って東本願寺の門前町に合わせてほしい。				
東本願寺前市民緑地に対して今後どの様に関わっていきたいか	主体的○ 受動的●	●東本願寺前市民緑地が整備され訪れやすい雰囲気になったら参加していきたい。	●多忙であるため、中心になって関わるのは難しい。 ●サポートに回り、学区には宣伝していく。	●若い人に出てきてもらえるようなイベントを学区の若い方が開催していってほしいと思う。 ●次世代の人に早く意識を持ってもらえるような活動に参加していきたい。	●皆山学区が中心となってるものにサポートとして参加していきたい。	●ある程度のイベント等は参加していきたい。 ●東本願寺、区役所があるため、主体となるのは難しいが、全面的に協力はしていく。	●少し距離があり東本願寺の門前町の目があるため差し出がましいことはできない。 ●単独ですると問題があるため、東本願寺前の門前町の人たちと共同企画を行っていきたい。	●学区が違うため、消防分団として行くと東本願寺や皆山学区の人たちの目があるため行きにくい。
	主体と考えている団体				・地域住民が主体となり、下京区役所がサポートの回る形の方が良い方が良い。		・学区や門前町が主体となって取り組んでほしい。	
	その他				・下京渉成五学区との繋がりがあるため、一緒にやっていくとなるという気持ちにはなりやすい。			

【表 - 4】商店街のヒアリング結果

発言のテーマ		区分		
		新京都頭会会長	七条商店街振興組合理事長	東本願寺前商店会副理事長
会議に関する内容	①課題と②解決策	・①人が多すぎて意見をいう人がいなかったため、②分科会を行い出てきた意見をすり合わせる方が効率的。	・①地域の人たちには東本願寺のためになり、地域のためになるという前向きな事を知ってもらういため説明することが必要である。 ・①下京区役所の会議は雰囲気としては話しにくい。	（・①想いを述べるオピニオンリーダーがいなければ関係者会議があっても進化しない。）
	意見		［・地域住民の人たちは関わらないと楽できるという習性があるため話を振らないと意見が出てこない。］ ［・地域の代表という意識を持ち東本願寺前市民緑地に対しての関わるか関わらないかのメリハリを持ってほしい。］ ［・関わりにくい学区の方々には学区内の住民が住民が来やすい環境を作っておいてほしい。］	
東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいか	主体的○ 受動的●	●東本願寺前市民緑地から離れており、商店街の半数以上が企業であるため出店は厳しいが実際市民緑地が、整備された後に商店街でできる範囲で協力はしていきたい。	○●主体的に関わっていくこともあれば、受動的に関わることもあり、商店街の予算をつけ主体的にやるイベントをやってみたい。 ●主体的に関わらない取り組みでもお手伝いはしたい。 ○東本願寺前市民緑地に関する取り組みには半数以上主体となって関わっていきたい。	●私も含め率先して引っ張っていく立場の人がいないため、もっと引っ張っていくようなオピニオンリーダーが欲しい。
	主体と考えている団体			
	その他	・地域住民にボランティアとして花の水やり等の維持管理を行って貰えば良いのではないか。	・主体的に動かない関係者が多い現状に対しては大学のお手伝いサークル等で解決すれば良いと思う。 ・うまく商店街の理事長、皆山学区副会長、門徒という立場を利用しながら取り組みに関わっていく。	

【表 - 5】事業者のヒアリング結果

発言のテーマ		区分		
		株式会社京阪流通システムズ 営業本部京都事業所 京都タワーサンド館長・従業員	ホテルカンラ京都総支配人	京都駅ビル開発株式会社 営業部文化・観光プロモーション課 課長　課長代理
会議に関する内容	①課題と②解決策	・②様々な利害関係者が混在した中での意見交換をする前に分科会等の事前調整を行う必要があった方が意見が出やすいのではないか。 ・①各利害関係者の立場が分からないまま話を進めることは的を得ない意見の原因になるため、②各利害関係者の情報が欲しい。	［・②会議をもう少しミニマム化していき、分科会等はホテルカンラ京都のカフェスペースを使えば良いのではないか。］ ［・①分科会の分類の方法とその会議の意見集約を誰がするのかが課題になる。］	・①会議自体に既定路線が決まっているため、意見を言っても変わらないという認識があるため、②意見集約して参考にしたことを示さないと有意義な会議にはならない。 ・①地域住民、事業者、商店街等のそれぞれの立場で意見が180度違うため意思統一をしていく必要がある。
	意見	・スケジュール感として詰まっているイメージがあるため、会議の主催者が恣意的になったとしても脈道、コントロールしていかないと最後に地域住民の人たちの不満が爆発してしまう懸念がある。 ・スケジュール感が分かっていないと意見が言いにくい。 ・意見を言っても変わる部分と変わらない部分があると思うため、前提を整理して教えて欲しい。 ・我々の立場からすると事前情報の開示とアジェンダがほしい。		・ハード面から関わることができるタイムスケジュールにしてほしかった。 ・関係者同士の距離感がある。 ・全員で集まる必要はない。 ・一通り話を聞いたらガンガン話を進めていくべきである。 ・関係者会議においてどこが主導となっているのかが分からない。
東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいか	主体的○ 受動的●	●東本願寺前市民緑地が整備された後も協力していきたい。 ●主体となると利益本位になり術としてもあまり術としても良くないため、良いように利用して欲しい。	●長期的な施策に対して協力できることが一つでも多くなれば良いと思う。 ○企画案件を出して良いのであれば主体的に行っていくこともある。 ○コロナ渦において地域の方の繋がり方や接点の大切さを再認識したため小さなマルシェや美化活動に力を入れてホテルカンラ京都から取り組んでいきたい。	●具体的に東本願寺前市民緑地で何かしようかいうことは考えていないが協力できることはしていきたい。 ●東本願寺前市民緑地がにぎわえば駅ビルも潤うため協力していく。
	主体と考えている団体	・主体となる人が分からないため教えてほしい。 ・主体となるのは行政や東本願寺になると感じている。		・主体となるのは下京区役所だと思う。
	その他	・京都タワーサンドに来てくれるような紹介、PRに繋がることを提案していく。		

【表 - 6】関係機関のヒアリング結果

発言のテーマ		区分 公立大学法人京都市立芸術大学移転準備室室長　副室長
会議に関する内容	①課題と②解決策	［・①学区でさえも温度差があり、みんなが等しく意見を言い合う場にはなりえないと思うため、②意見を吸い上げるためには小さい集団で行っていくべき。］
	意見	［・情報を共有し承認するということはできるが、会議として議論するのは現実的に不可能だと思う。］ ［・東本願寺前市民緑地に対して、門前の人たち以外はは思い入れがないため、議論する場ではないと思う。］ ［・各利害関係者の立場がよく分からない状態で話を進めていくと議論としてまとまらない。］
東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいか	主体的○ 受動的●	
	主体と考えている団体	
	その他	・移転後、地域の人たちと何ができるのかを考えていきたい。 ・東本願寺前市民緑地に対してだけでなく京都市全体を見据えた活動を行っていきたいとは思っているが、現時点では分からない。 ・何をするというわけでなく、京都市立芸術大学としての活動を見てもらうことになると思う。

【表 - 7】東本願寺のヒアリング結果

発言のテーマ		区分 真宗大谷派宗務所（東本願寺）主事
会議に関する内容	①課題と②解決策	・①東本願寺前市民緑地の運用面を解決することが課題としてあり、②解決の糸口になるのが関係者会議だと思う。 ［・②分科会にあたるのがワークショップになると思う。］
	意見	・課題ではないが、第二回の関係者会議でワークショップ等で本音が出ることは楽しみである。
東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいか	主体的○ 受動的●	●門前のきれに持つ最低限のことは東本願寺として協力しなといけないと思っている。
	主体と考えている団体	・市民緑地であるため、市民の人たちが主体になるという認識である。 ・東本願寺内でも大きい組織であるため様々な意見はあるが京都市役所がある程度運用面に関して主導を握ると思う。
	その他	

5-3. 利害関係者ごとの分析

5-3-1. 地域住民

・尚徳自治連合会会長：会議に対する内容については、機運醸成事業が始まってから初めての関係者会議であったため何について議論すればよいか分からないという結果が得られた。また、東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいかについては東本願寺前市民緑地が整備され訪れやすい雰囲気になれば取り組みに参加していきたいといった受動的なコードが得られた。

・菊浜連合会市政協力委員：会議に対する内容については、関係者会議の課題と解決案として、「人数が多く意見交換することが難しいため、少人数に分けること」、「基本的な知識がないため意見が言いにくい」「年齢層が高いため若い人の意見を聞く」といった意見交換に関する意見が抽出された。また東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいかについては中心になって関わるのは難しいためサポートとして学区に宣伝していくといった受動的な意見が得られた。

・皆山連合会会長：会議に対する内容については、会議の課題と解決策についてのコードは得られなかったが、「東本願寺前の門前町の意見に西本願寺は合わせて欲しい」といった西本願寺周辺に対する意見が抽出された。また、東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいかについては「若い世代が主体となってイベントを開催してほしい」、「次世代の人に早く意識を持ってもらえる活動に参加していきたい」といった受動的な意見が得られた。

・崇仁自治連合会副会長：会議に対する内容については、会議の課題と解決策として「公園の知識があまりないため、市民緑地の事例の紹介を行う」、「誰が維持管理を行っていくか議論する」といった意見が抽出された。また、東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいかについては「皆山学区を中心になっているものに参加したい」といった受動的な意見が得られ、地域住民が主体となるべきであるということも抽出された。

・植柳自治連合会会長：会議に対する内容については、会議の課題と解決策として「各利害関係者の目的のすり合わせ」、「誰が中心となって東本願寺市民緑地の整備を行うのか」といった意見が抽出された。また、東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいかについては、「ある程度の取り組みは参加する」、「東本願寺、区役所があるため主体となるのは難しいが全面的に協力する」といった受動的な意見が得られた。

・植柳まちづくりプロジェクトチーム代表：会議に対する内容については、会議の課題と解決策として「より多くの人に東本願寺市民緑地のことを知ってもらうために、地域の輪を広げコミュニティを作っていく」という意見が抽出された。また、東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいかについては「距離があり東本願寺の門前町の目があるため差し出がましいことができない」、「東本願寺の門前町の人たちと共同企画を行っていきたい」といった受動的な意見が得られ、学区や門前町が主体となって取り組んでほしいという意見が抽出された。

・稚松連合会会長：会議に対する内容については、会議の課題と解決策として「行政と東本願寺の人たちの意見に返答する場であり、意見を述べる場ではない」といった意見が抽出された。また、東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいかについては「東本願寺や皆山学区の人たちの目があるため参加しにくい」といった受動的な意見が得られた。

5-3-2. 商店街

・新京都頭会会長：会議に対する内容については、会議の課題と解決策として「人が多すぎたため、分科会を行い、出てきた意見をすり合わせていく」といった意見が挙げられた。また、東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいかについては「東本願寺前市民緑地と距離があり、商店街の特色により出店は厳しいため、できる範囲で協力していきたい」といった受動的な意見が得られ、地域住民にボランティアとして維持管理を協力してもらうという意見が挙げられた。

・七条商店街振興組合：会議に対する内容に対しては、「地域の人たちには東本願寺のためになり、地域のためになるという前向きな事について説明していく」、「下京区役所の会議は雰囲気として話しにくい」といった意見が抽出された。下京区役所の会議の雰囲気については別の質問項目でも抽出された。また、東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいかについては「主体的に関わっていくこともあれば受動的に関わっていくこともある」、「東本願寺前市民緑地に関する取り組みには半分以

上は主体的に行っていきたい」、「主体的でなくても協力はしたい」といった主体的な意見と受動的な意見の両方が得られ、複数の役職の立場をうまく利用しながら関わっていきたいという意見も抽出された。

・東本願寺前商店会副理事長：会議に対する内容については、また、東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいかについては会議の課題と解決策として「想いを強く述べるオピニオンリーダーがいなければ関係者会議があっても進化しない」といった意見が別の質問項目から抽出された。また、東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいかについては、「率先して引っ張っていく立場でない」という受動的な意見が得られた。

5-3-3. 事業者

・株式会社京阪流通システムズ営業本部京都事業所京都タワーサンド館長・従業員：会議に対する内容については、会議の課題と解決策として「様々な利害関係者の中で意見交換会をする前に分科会を行っていく」、「各利害関係者の立場等が分からないまま話を進めていくのは的外れな意見の原因となるため、各利害関係者の情報が欲しい」といった意見が抽出され、会議に対して出てきた意見でも「事前情報の開示とアジェンダが欲しい」という情報共有に関する意見が挙げられていた。また、東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいかについては「東本願寺前市民緑地が整備された後でも協力していきたい」、「主体となると利益本位になってしまい、街に対しても良くない」という受動的な意見が得られ、行政や東本願寺が主体となると考えていることが分かった。

・ホテルカンラ京都総支配人：会議に対する内容については、著者が例を示した会議の課題と解決策に対して「会議をミニマム化し、ホテルカンラ京都のカフェスペースで分科会を行う」、「分科会の分類方法と会議の意見集約は誰がするのか」といった意見が得られた。また、東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいかについては「具体的な施策に対して協力できることが一つでも多くなれば良い」、企画案件を出して良いのであれば主体的に行っていくこともある」、「コロナ渦において地域の人との繋がりを再認識したので、地域の人と繋がりイベントを仕掛けていきたい」といった主体的な意見と受動的な意見の両方が得られた。

・京都駅ビル株式会社営業本部・観光プロモーション課課長・課長代理：会議に対する内容については、また、東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいかについては会議の課題と解決策として「会議自体に既定路線が決まっているため、意見を言っても変わらないという認識があるため、意見を参考にしたことを示す」、「各利害関係者の意思統一を行っていく必要がある」といったことが意見として抽出され、会議に対して出てきた意見では「関係者同士距離がある」、「全員で集まる必要はない」等が挙げられていた。また、東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいかについては「具体的に何ができるかからである。以上のことから東本願寺前市民緑地のプロジェクトわからないが協力したい」、「駅ビルが潤うため協力していきたい」という受動的な意見が抽出され、下京区役所が主体となると考えていることが分かった。

5-3-4. 関係機関

・公立大学法人京都市立芸術大学移転準備室室長・副室長：会議に対する内容については、著者が示した会議の課題と解決策に対して「各利害関係者間で温度差があり、ひとしく意見を言い合う場にはなり得ないため、意見を吸い上げるには小さい集団で行っていくべき」という意見が得られ、会議への意見では「第一回関係者会議の形式は意見交換するものではない」、「立場が分からない状態では意見がまとまらない」といった関係者会議の形式に関するものが挙げられた。また、東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいかについては、主体的な意見、受動的な意見は得られず「移転後、地域の人たちと何ができるか考えていきたい」「現時点ではわからない」「移転後京都市立芸術大学としての活動を見てもらう」といった独立的な意見が得られた。

5-3-5. 東本願寺

会議に対する内容については、会議の課題と解決策として「東本願寺前市民緑地の運用面を解決することが課題としてあり、関係者会議が解決の糸口である」、著者の例示に対して「分科会にあたるのがワークショップになる」ということが挙げられた。また、東本願寺前市民緑地に対して今後どのように関わっていきたいかについては「門前をきれいに保つことは東本願寺として協力していきたい」、といった受動的な意見が抽出され、「運用面では京都市役所がある程度主導を握る」、「市民緑地であるため市民の人たちが主体になるという認識である」といったことから京都市役所と地域住民が主体となると考えていることが分かった。

第6章　まとめ＜改善段階＞

6-1. 結論

本研究では、東本願寺前市民緑地における機運醸成事業の一環として行われた関係者会議とヒアリング調査から課題①：東本願寺前における市民緑地整備の機運醸成事業の目的を達成するための円滑な関係者会議の方法について、課題②：東本願寺前市民緑地における当事者意識についての現状を明らかにした。

課題①については主に２点ある。１点目は、小さな分科会を行った上で大きな関係者会議行うことである。これはヒアリング調査の際に会議の課題を伺ったときに挙げられた実際の意見であり、「第一回関係者会議の形式は意見を述べる立場ではない」といった課題から出てきた関係者会議の方法として挙げられた。２点目は、関係者会議自体を「情報共有の場」として扱うことである。これは関係者会議の課題の中で最も多く挙げられた意見である。実際、東本願寺前における市民緑地整備に向けた機運醸成事業の関係者会議の位置づけとして「東本願寺前市民緑地整備についての情報共有」がある。しかし、情報共有に関しての意見が最も多かったということは、各利害関係者への周知が足りていないにおける関係者会議に対して「意見を述べる場ではない」、「情報

共有が足りていない」といった印象を持っていることが分かる。

課題②についてはほとんどの利害関係者が主体的ではないということが現状としてある。しかし、「協力」、「サポート」はしていきたいという意識はあることが分かった。

6-2. 今後の課題

6-1 から主体となるという利害関係者は少ないが協力やサポートしていきたいという意見が多いことが分かった。この協力やサポートといった意見を主体性のあるものに変えるための手段となりうるのが関係者会議となると考える。その関係者会議をいかに情報共有や各利害関係者の意見交換としての場に使えるかが今後の課題になってくる。

謝辞

本研究を進めるにあたり、立命館大学　理工学部　都市システム工学科　金度源　准教授、立命館大学　理工学部　都市システム工学科　大窪健之　教授、真宗大谷派宗務所（東本願寺）、一般社団法人公共事業研究開発　代表取締役　京都市役所　みどり政策推進室、下京区役所　地域力推進室　に研究を進めるためのご指導及び調査を行うにあたってのご協力を賜りました。また、ヒアリング調査にご協力いただいた尚徳自治連合会　会長、菊浜連合会　市政協力委員連絡協議会会長、皆山連合会　会長、崇仁自治連合会　副会長、植柳自治連合会　副会長、植柳まちづくりプロジェクトチーム　代表、稚松連合会　会長、新京都頭会　会長、七条商店街振興組合　理事長、東本願寺前商店会　副理事長、株式会社京阪流通システムズ営業本部京都事業所　京都タワーサンド館長、従業員、ホテルカンラ京都　総支配人、宿泊支配人、京都駅ビル開発株式会社営業部文化・観光プロモーション課　課長、課長代理、公立大学法人京都市立芸術大学移転準備室　室長、副室長、真宗大谷派宗務所（東本願寺）　主事には多くのご尽力と貴重なご意見を賜りました。ここに感謝の意を表します。

補注

(1) ヒアリング調査をボイスレコーダーで記録したもののテープ起こしを行い、その内容のコード化を行った。

(2) 東本願寺における市民緑地整備に向けた機運醸成事業については一般社団法人公共事業研究開発からいただいた「企画提案書」を基に執筆を行った。

(3) 関係者会議はビデオカメラとボイスレコーダーで記録を行った。

(4) 【表 - 2】は下京区役所からいただいた「第一回関係者会議配布資料」を基に作成した。

(5) ヒアリング調査及び分析は著者（島田）が行った。

(6) コーディングを行う際、「ここに書かれていることはどのようなテーマについて述べているのか」を軸に行った。

参考文献

1) 京都市:京都市情報館
[https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000260082.html] 2020.7.1.閲覧

2) 日本経済新聞
[https://www.nikkei.com/article/DGXMZO52449900R21C19A1LKA000/] 2020.7.1.閲覧

3) 京都市下京区
[https://www.city.kyoto.lg.jp/shimogyo/page/0000275833.html] 2021.1.23.閲覧

4) 京都市下京区
[https://www.city.kyoto.lg.jp/shimogyo/page/0000276494.html] 2021.1.23.閲覧

5) 阿部俊彦, 藤岡涼, 佐藤滋：復興まちづくりにおけるまちづくり会社の組成プロセスに関する研究 気仙沼市内湾地区復興まちづくり協議会を事例として, 日本建築会系論文集 2017 年, Vol.82, No.735, p.1221-1230

6) 渡辺直, 加藤浩司, 宮脇勝, 北原理雄：中心市街地の賑わい創出を目的とした公共空間利用実験-千葉市「都市景観市民フォーラム」を事例に-, 日本都市計画学会論文集 2001 年, 36 巻, p.793-798

7) 京都市：京都市情報館
[https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000250877.html] 2021.1.23.閲覧

8) 波平恵美子：質的研究 Step by Step－すぐれた論文作成を目指して, 医学書院, 2019, p.42

9) 中嶌洋：初学者のための質的研究 26 の教え, 医学書院, 2020, p.46-49

10) 佐藤郁哉：質的データ分析法, 新曜社, 2020